

令和4年度 事務事業評価シート（1）

[令和3年度事務事業]

一般会計				事務事業分類	A 一般事務事業
事務事業名	こころの健康づくり推進事業			事業番号	011-206
担当部署名	健康福祉	局	健康	部	精神保健 課

I. 基本情報

事業の位置付け

1	堺市基本計画 2025	施策との関連	有・無	戦略	2.人生100年時代の健康・福祉 ～Well-being～	施策	(5) 障害者が生きがいを持って心豊かに暮らせる社会の実現
			有	取組の方向性	①相談支援体制の充実・強化		
		寄与するKPI	有・無	指標名	—		
	堺市SDGs 未来都市計画	施策との関連	有・無	ゴール	—	ターゲット	—
			無	取組	—		
		寄与するKPI	有・無	指標名	—		
		無	現状値	—	目標値	—	

2	関連計画					
3	事業開始年度	昭和 49 年度	点検年度	令和 7 年度		
4	実施根拠 (根拠法令、条例等)	精神保健及び精神障害者福祉に関する法律				

事業の概要

5	事業の実施主体 (実施主体となる団体等)	本庁、各区				
6	事業の対象 (対象とする人や物、対象数)	こころの健康に悩みを持つ市民及びその家族等	対象数	—		
7	事業の目的 (事業実施によりめざす状態)	精神疾患やその治療についての相談指導に応じるとともに、市民のこころの健康保持・増進や精神疾患に関する相談等を実施することでメンタルヘルスの維持向上を図る。また、精神障害者の社会復帰・社会参加の促進を目的とする。				
8	事業内容 (目的を達成するための手段)	<ul style="list-style-type: none"> 保健センターにおいて精神保健福祉士や保健師が相談に個別に応じ、必要に応じて関係機関の紹介や連絡調整を行う。 相談内容・・・医療の受診や社会復帰、アルコール関連問題等 精神科医師による定例の精神保健福祉相談を実施（予約制） 				
	※スケジュール、実施方法・手段、事業規模・回数など					
	※国・府の基準より上回って実施した内容を具体的に記載					
9	主な支出先（委託・補助金・負担金等）					
10	公民連携・協働事業					

II. 事業目的の達成状況

事業の成果や活動実績の測定

成果指標(目的の達成状況を測定)	単位		実績		目標	目標	点検年度
			令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和7年度	
11 精神科医療に関する相談延件数	件	目標値	—	—	—	—	—
		実績値	11,109	12,066			
		達成率	—	—			
当該指標を選定した理由		こころの健康維持、社会復帰のためには、適切な医療につながる事が重要であるため。					
目標値の設定根拠・算出方法		市民等からの相談対応延件数のうち精神科医療に関する相談延件数であり、目標の設定にはなじまない。					
活動指標(成果を上げるための手段)	単位		実績		目標		
			令和2年度	令和3年度	令和4年度		
12 精神保健福祉相談延件数	件	目標値	—	—	—		
		実績値	28,504	28,519			
		達成率	—	—			
当該指標を選定した理由		あらゆるこころの健康に関する相談に対応し、必要に応じて適切な支援につなげることができる機会となるため。					
目標値の設定根拠・算出方法		市民等からのこころの健康に関する相談対応延件数であり、目標の設定にはなじまない。					

令和4年度 事務事業評価シート（2）

事務事業名	こころの健康づくり推進事業	事業番号	011-206
-------	---------------	------	---------

Ⅲ. 投入量

事業コスト

※当初予算には、前年度からの繰越分を含む。 (単位：千円)

項目	令和元年度	令和2年度	令和3年度		令和4年度
	決算	決算	当初予算	決算	当初予算
事業費 (a)	13,988	12,453	19,217	14,560	18,133
13 財源内訳	国支出金				0
	府支出金				0
	市債				0
	その他 ()				0
	受益者負担金(使用料、手数料等)				
一般財源	13,988	12,453	19,217	14,560	18,133
14 人件費 (b)	136,440	134,480	134,480	133,250	132,840
15 年間経費(c)=(a)+(b)	150,428	146,933	153,697	147,810	150,973

事業費の内訳

(単位：千円)

項目	年度		事業費		うち一般財源	項目	年度		事業費		うち一般財源
	R3	決算	5,432	5,432			R3	決算	196	196	
16 事業費内訳	医師報酬	R4	予算	7,560	7,560	消耗品費 (枠)	R4	予算	645	645	
		R3	決算	6,764	6,764		印刷製本費 (枠)	R3	決算	31	31
	会計年度任用職員報酬	R4	予算	6,850	6,850	精神障害者地域交流運動会負担金		R4	予算	13	13
		R3	決算	1,293	1,293		担金	R3	決算	0	0
	期末手当 (会計年度任用職員)	R4	予算	1,443	1,443	精神保健福祉セミナー開催負担金		R4	予算	271	271
		R3	決算	166	166		金	R3	決算	173	173
	謝礼金 (枠)	R4	予算	354	354	その他		R4	予算	173	173
		R3	決算	486	486		R3	決算	19	19	
費用弁償 (通勤費)	R4	予算	623	623	R4	予算	201	201			

Ⅳ. 事業の効率性

単位当たり経費

区分	単位	令和2年度	令和3年度
① 精神保健福祉相談員による相談対応	件	28,504	28,519
② 上記①にかかる年間経費	千円	134,480	133,250
③ 単位当たり経費 (②÷①×1,000円)	円/単位	4,718	4,672

備考 (算出についての説明等) 精神保健福祉相談員による相談件数に対する人件費を計上

Ⅴ. 評価

費用対効果に係る所見

18 各区の保健センターにおいて、こころの健康に関する相談等を受けており、精神保健福祉士や保健師が医療の受診や社会復帰、アルコール関連問題等に関する相談に個別に応じ、必要に応じて関係機関の紹介や連絡調整を行っている。令和3年度の相談延件数は28,519件であり昨年度と大きく変わりはないが、精神科医療に関する相談については全体の4割以上を占めている。専門職である精神保健福祉士や保健師が相談を受けて対応し、また精神科医師による相談を活用することで、未治療者や治療中断者に対するアプローチなど、より専門性の高い医療相談対応を行っており、有効性は高いと考える。ただし、令和3年度についてはまだ新型コロナウイルス感染症への不安により対面での相談件数が少なくなっているため、精神科医師による相談件数にも影響が出ている。

KPI等への寄与 (基本計画等のKPI・取組の方向性や事業の目的の達成にどのように寄与したか)

19 ストレスの多い現代社会において、思春期の不登校、摂食障害、壮年期のうつ病、職場不適応、アルコール依存症、老年期の認知症など、こころの健康はあらゆる年代で深刻な問題となっている。また、昨今の地震や豪雨などの自然災害による被害、新型コロナウイルス感染症による外出抑制など、不安やストレスを抱えての生活が長期化することにより、心の不調をきたす場合があり、心のケアの必要性が高まっている。本市では、長年、精神保健福祉士を常勤職員として配置し相談支援体制を構築してきた。その中で、知識や経験が積み重ねられており、多岐にわたる相談内容に対し、精神保健福祉士が精神科医師や保健師と共に多角的な見地から有効性・実効性のある支援について検討し実施している。また、家庭訪問や受診同伴等のアウトリーチ支援や危機介入を積極的な支援を行うことで、必要な医療につなぎ、精神障害者の社会復帰を促進している。加えて精神科医療は対象範囲を広げており、その中で公的機関には医療分野、福祉分野共に処遇困難事例への関わりが望まれ、当該事業を担当する相談員に求められる水準は高くなっているが、このことに対し、専門機関であるこころの健康センターによる個別事例への技術支援や研修、事例検討を実施し、相談対応力の向上を図っている。以上のことから、堺市基本計画2025の取組の方向性「相談支援体制の充実・強化」に寄与している。